

- ・ 学習展開の中で、どこにどのように関連語句を扱うかの計画を持つ。発問の具体化。
  - ・ 教材研究の段階で、余白や行間等、叙述の意味内容から外れないところで、想像的活動が豊かに位置づけられる場面を発掘していく。
- ③ 文学的教材の読解鑑賞指導のスタート段階で、「生徒個々の読みの課題」と「教師の考えている読みの課題」の違いをどのようにすりあわせ的確な学習課題や単元展開を設定していったらよいか。(学習課題の持たせ方)
- ・ 「読みの焦点化のための組織を「感想の要点分類一覧表」をもとに設計する。(単元展開の構想)
  - ・ 感想の類似、深化、対立などが自然に浮かんでくるように一覧表を構成する。
  - ・ 学習展開の中で何かの問題が焦点になるたびに、初発の感想でそのことに触れた子どもの名前を指名し、発言を学習の中に組み込む。(全員発言をできるだけ合理的発展的に組織する)
  - ・ 学習の追求過程で、連帯的なグループ学習を位置づける。
  - ・ 当面問題になっている事柄について各自が意見や考えを記入できるような「学習カード」を作成しながら発言を促す。
  - ・ 学習者の発言を要領よく板書し、氏名を付記することにより、話し合いを深める環境を整備する。

### 3 研究の成果

#### 1 指導の実際(本時を中心に)

- (1) 前時に学習した叙述の意味内容をふまえて。僕とエーミールの日記を想像し書かせた学習場面では、作品の状況に対する色々な価値観が出てきており個々の生徒の学ぶ姿が映し出されていた。
- (2) 前半の前時の復習(叙述の意味内容把鮑)に時間が取られてしまい、後半のグループでの学習時間が短くなってしまった。個人追究と全体追究の学習場面をどのように収束させて学習を進めていくか、時間配分の重要性が明らかになった。
- (3) 「それいいね!」「分かる分かる」と友達の学習カードを見ながらつぶやく声が聞こえてきた。学習者相互の学び合う姿が見られた。

#### 2 この事例から明らかになったこと

- (1) 登場人物の心情を追究し読み深めていく上で、「比較」が有効であることが明らかになってきた。作品は主人公「僕」の視点で描かれているが、その他の登場人物の心情も同時に追究していく場面を作ることが、豊かな読みにつながっていくと思われる。
- (2) 「感想一覧表」を使い単元展開を創造していく手法は、生徒が用意した目の前の教材で何ができるか、を指導者が創意工夫していく重要な教材研究の場面であり、大切にしていきたい。

### 4 来年度への課題

- (1) 文学的教材の読解鑑賞指導における読みの「論理的側面」と「想像的側面」の具体的指導場面をいかに設定していったらよいか。
- (2) 授業場面で生徒相互に互いの意見を「比較・検討」する中で読みを深めていく指導はどうあったらよいか。